

複合施設整備 基本設計（概要版）

令和5年3月
白河市

1. 設計方針	…P.1
2. 基本設計コンセプト	…P.2
3. 施設構成計画	…P.3
4. 配置・計画概要	…P.4
5. 1階平面計画	…P.6
6. 2階平面計画	…P.7
7. 3階平面計画	…P.8
8. 環境配慮計画	…P.9
9. 外観パース	…P.10
10. 内観パース	…P.14

※ この基本設計に記載されている計画内容は、今後の実施設計の検討を進める中で変更が生じる場合があります。

1. 設計方針

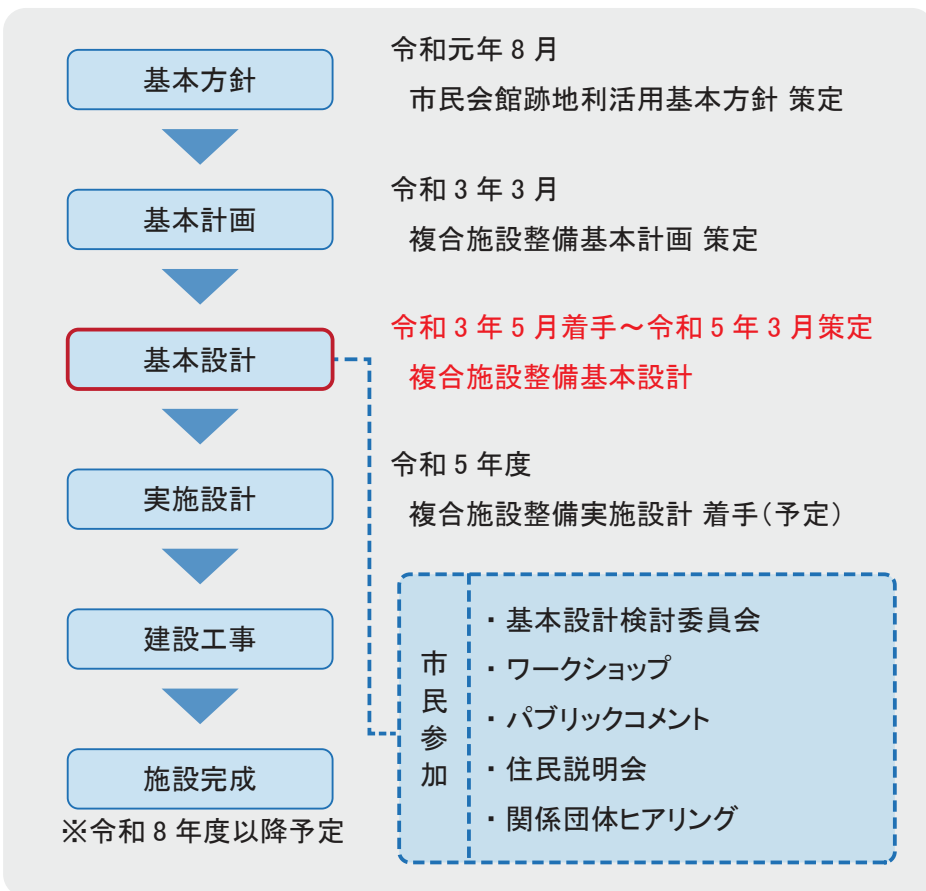
はじめに

市では、市民会館跡地に「健康増進」「子育て支援」「生きがづくり」の機能を柱とした複合施設の整備を進めています。

このたび、市民等で構成する検討委員会やワークショップなどにより意見を伺いながら検討を重ね、複合施設の配置や平面計画など建物の概略を示す「基本設計」を取りまとめました。

計画コンセプト

これまでの経過と今後の予定



基本計画における整備コンセプトと整備方針

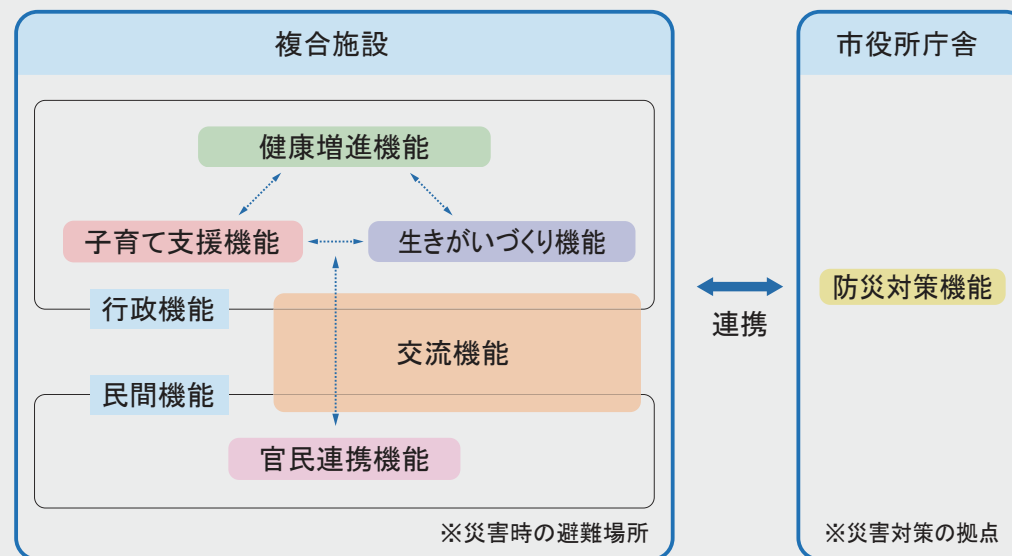
【整備コンセプト】

みんなの笑顔がつながる ほっとスペース

～みらいの暮らしをつくり、豊かに住み続けられる「まち」の拠点～

【整備方針】

- ① 健康増進機能、子育て支援機能、生きがづくり機能、民間機能、交流機能を導入します。
- ② 市内の周辺公共施設と用途が重複しない機能を配置し、老朽化した公共施設の維持管理費を抑えられるよう複合施設へ機能を集約します。
- ③ 市民・職員が利用しやすい動線で、市役所庁舎と一体的に連携できる機能配置とします。また行政機能と民間機能との日常的な連携やイベント開催などの非日常の利用実態にも配慮した配置とします。

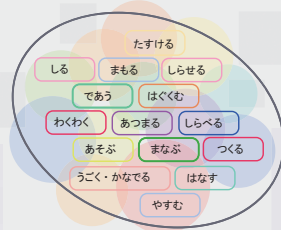


2. 基本設計コンセプト

空間

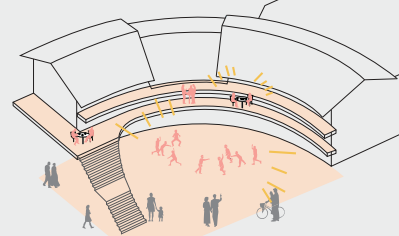
効率性や合理性、さらにはデジタル技術の革新により、新たな社会構造が構築されていく一方で、希薄になりがちな人と人の関わりや、人が人として原点に戻るための空間を整備します。

機能の融合により多様性を生み出す



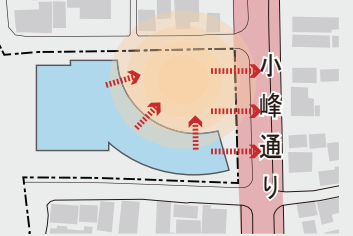
施設を複合化し、施設内のそれぞれの機能が融合し、相互に好影響を与える関係を創り出すことで、多様な市民活動が展開できる施設とします。また、子どもからお年寄りまで、幅広い世代、様々な立場の人が集い、つながり、交流することができる場とします。

居心地の良いサードプレイスの創出



建物の各所に「テラス」、建物正面に「広場」を設けることで、思い思いに時間を過ごせる快適な空間として、気軽に立ち寄りたくなる居場所とします。また、屋内空間から「テラス」、「広場」へと一体的な利用を意識した空間は、多様なコミュニティ活動を活性化させます。

周辺エリアに波及する賑わいづくり

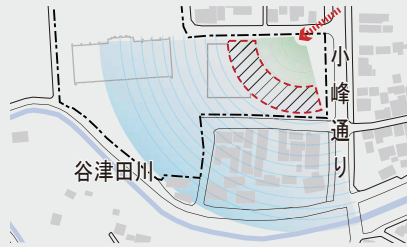


誇りと愛着を感じるまちの拠点となるよう、小峰通りに向けて建物正面と広場を設け、施設内の活動が広場に波及し、その広場の賑わいを小峰通りからまち全体に発信します。また、小峰通りと一体化した活動も促します。

デザイン

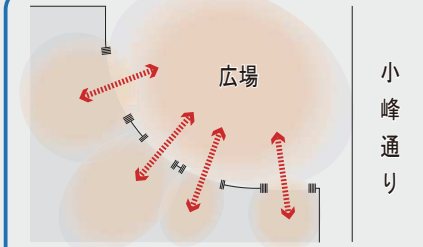
柔らかく包み込む包容力や多様な価値観と共生する寛容性を表現し、市民の心の拠り所としての意味を持たせたデザインとします。

谷津田川をモチーフとした求心的な形状



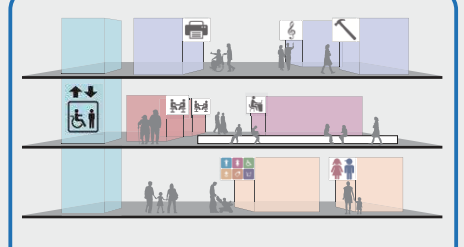
建物の形に谷津田川の形を取り入れ、人々を迎え入れ、包み込むようなデザインとします。また、小峰通りに対して求心性のある形とし、小峰通りを歩き交う人々が立ち寄りたくなるような建物になることを目指します。

広場と建物の一体的なつながり



1階の広場側に面した外壁を開放できるようにすることで、建物と広場が一体的に使えます。これによって今までの白河にはない、新しい建物・広場の使い方が可能になり、多様なイベントを開催することができます。

ユニバーサルデザインに配慮した誰でも訪れやすい施設

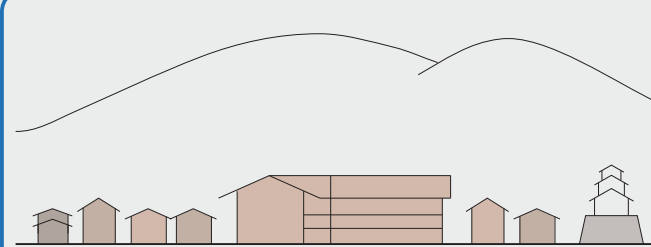


目的のフロアに段差なく直接エレベーターで行ける計画とし、わかりやすいサイン・利用者動線を計画します。さらに、だれでもトイレや子どもトイレ、授乳室の設置など、子ども連れの利用者を含む誰もが安心して利用できる施設を目指します。

景観

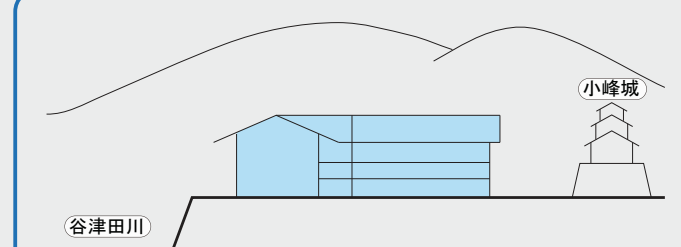
小峰通り沿いに面的に揃え、城下町の景観にも配慮しつつ魅力的な建築物となるよう計画します。

城下町の景観に調和+新しい外観デザイン



約400年前に奥州街道沿いに整備された城下町地区（景観計画推進区域）は、現在も白河市の中心市街地にその歴史が受け継がれています。その歴史的空間と調和しながら、多くの世代を惹きつける新しい外観デザインを計画します。

白河の新しい視点場



周辺の旧城下町の風景を望めて新たな魅力を発見できる視点場となります。また、建物自体が白河の新しい景観を生み出しながら、既存の景観にも配慮した地域の居場所となる施設とします。

3. 施設構成計画

■導入機能の概要

健康増進機能

●保健センター

市民の健康を支える拠点として、健康づくり、母子保健、食育等、すべてのライフステージに合わせた健康支援を実施

子育て支援機能

●子育て支援センター

ワンストップの子育て支援の拠点として、妊娠期から子育て期にわたり切れ目のない支援を提供

●ファミリーサポートセンター

子育ての「援助してほしい方」と「援助したい方」が会員となり、子育てを支え合う活動を支援

生きがいつくり機能

●生涯学習センター

中央公民館の機能を含んだ生涯学習の拠点として、幅広い世代の市民活動がより活性化するための魅力的な空間を整備

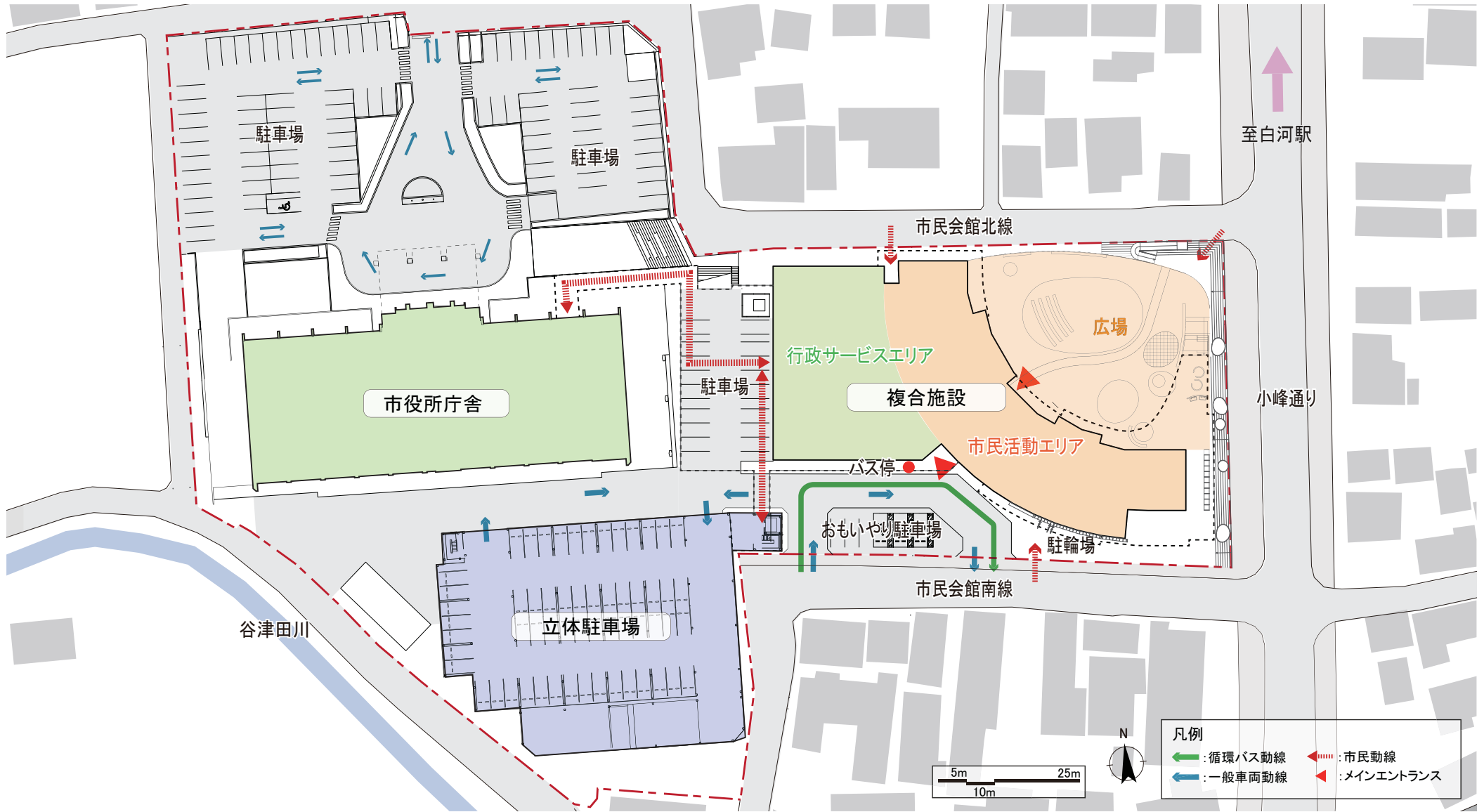
交流機能

幅広い年代が自由に利用でき、自然と賑わいや交流が生まれる空間として市民交流ルーム等を整備

官民連携機能

子育て中の女性をメインとした不安解消・仲間づくり・就労支援を行う女性サポートステーション（仮称）や施設利用者等の託児サービスなどを民間事業者と連携・協力して展開

機能	面積 (㎡)	主な用途
健康増進	約 610 ㎡	保健センター（総合健診室、検査室、健診待合室、診察室、健診準備室、バックヤード）、執務室、相談室
子育て支援	約 440 ㎡	子育て支援センター（窓口、執務室、書庫）、発達支援室、相談室、ファミリーサポートセンター・ホームスタート（受付・事務室、面接室）
生きがいつくり	約 1,100 ㎡	生涯学習センター（多目的ルーム、音楽ルーム、工作室、研修室、和室、クッキングルーム、学習ルーム、ミーティングルーム、執務室）
交流	約 350 ㎡	市民交流ルーム、プレイパーク
官民連携	約 400 ㎡	女性サポートステーション（仮称）、託児スペース、カフェ
店舗	約 110 ㎡	コンビニエンスストア等
その他、共用部	約 2,100 ㎡	倉庫、トイレ、職員用更衣室、給湯・休憩室、エレベーター
合計	約 5,110 ㎡	



■建物配置計画

- ・施設内の主要機能を『行政サービスエリア』と『市民活動エリア』に分けて、利用者にとってわかりやすく、使いやすい配置計画とします。
- ・市民活動エリアを東側、行政サービスエリアを西側に配置することで、「広場と市民活動」・「市役所と行政機能」の連続性を高めます。

■市民動線計画

- ・東側に面して広場を設けることで小峰通りからのアクセスが容易になり、また広場の賑わいが小峰通りにもあふれるような計画とします。
- ・複合施設2階レベル（市役所庁舎1階レベル）に屋外の連絡デッキを設け、市役所庁舎-複合施設-立体駐車場 間の移動の利便性を高めます。

■車両動線計画

- ・歩道と車道を明確に分け、歩行者と車両動線の交錯が最小限になるような計画とします。
- ・おもいやり駐車場や出入口には屋根を設け、雨や雪が掛からないように配慮します。

4. 配置・計画概要 4-2. 敷地・建物概要

■敷地概要

- ・敷地位置：福島県白河市手代町22-1
- ・敷地面積：15,733.4㎡
(計画地面積 5137.23㎡)
- ・用途地域：商業地域
- ・都市計画区域：都市計画区域内
- ・防火指定：法22条区域
- ・許容建蔽率：80%
- ・許容容積率：400%
- ・日影規制：4 - 2.5h / 4m
- ・道路斜線：適用距離20m / 勾配1.5
- ・隣地斜線：立上り高さ31m / 勾配1.5
- ・北側斜線：なし
- ・前面道路：北側 市道市民会館北線
東側 主要地方道白河停車場線
(小峰通り)
南側 市道市民会館南線
西側 市道市役所東線(廃道予定)
- ・高さ制限：高度地区なし
- ・その他地域地区：城下町地区(景観計画推進区域)

■建物概要

- ・建築面積：約2,800㎡
- ・構造：鉄骨鉄筋コンクリート造
一部鉄骨造 耐震構造
- ・階数：地上3階 塔屋1階
- ・主要用途：集会場
- ・最高高さ：約17.0m(設計GL=355.30より)
- ・駐車台数：約300台
(本庁舎北側駐車場 約90台
立体駐車場 約190台
複合施設駐車場 約20台)
- ・駐輪台数：約30台

■建物床面積

- ・1階床面積：約1,850㎡
- ・2階床面積：約1,600㎡
- ・3階床面積：約1,660㎡
- 延床面積：約5,110㎡

■立体駐車場床面積

- ・1階床面積：約1,910㎡
- ・2階床面積：約1,910㎡
- ・3階床面積：約1,910㎡
- 延床面積：約5,470㎡

■付近見取り図



■敷地周辺状況

- ・計画地は JR 白河駅から徒歩約 5 分の場所に位置しており、西側には本庁舎、東側には小峰通り、南側には谷津田川が流れています。
- ・計画地周辺には 3 階以上の建物は少なく、2 階以下の低層の建物が多く立地しています。
- ・計画地周辺の道路および、一体となる市役所庁舎側の敷地とは複雑な高低差があります。
- ・かつては市民会館が建っていましたが、現在は暫定的に駐車場として利用されています。



□旧市民会館



□全体範囲



① 小峰通り北東側から



② 小峰通り南東側から



③ 廃道予定箇所 南側から



④ 廃道予定箇所 東側から

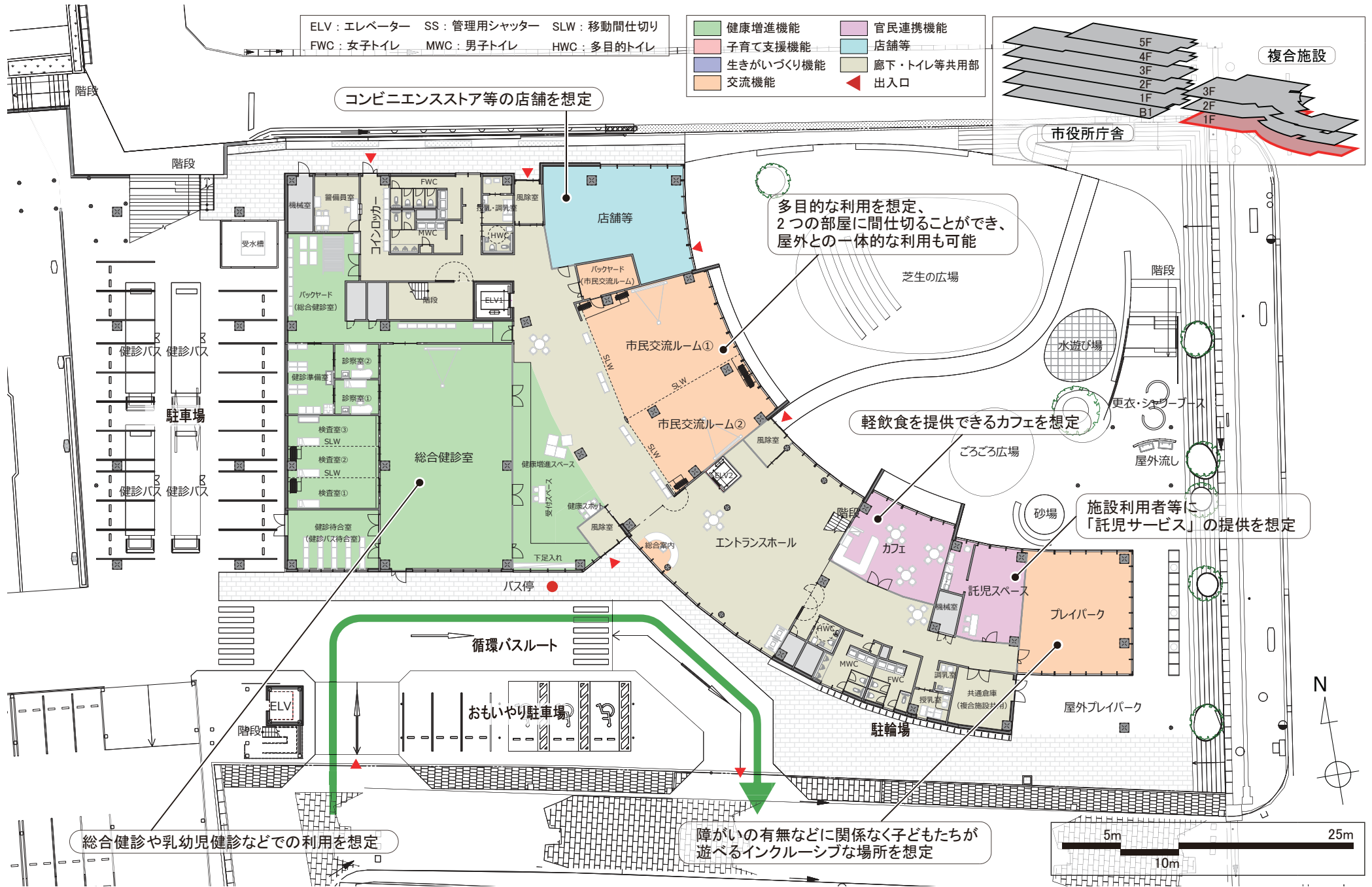


⑤ 谷津田川 谷津田川せせらぎ通りから

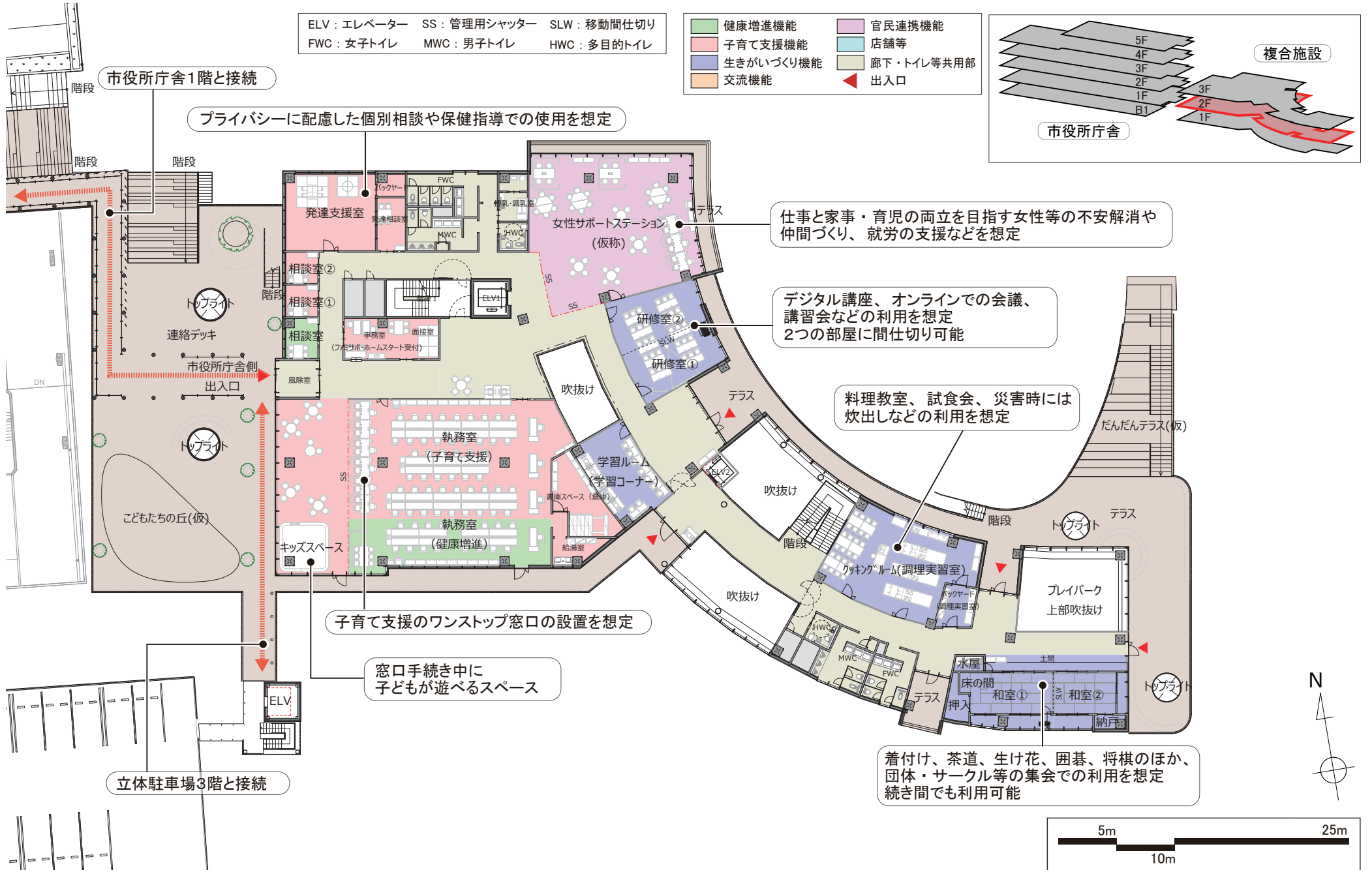


⑥ 小峰通り

5. 1階平面計画 (S=1:300)



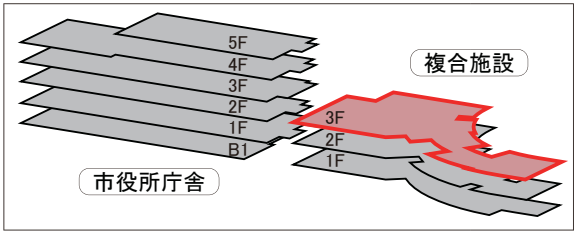
6. 2階平面計画 (S=1:300)



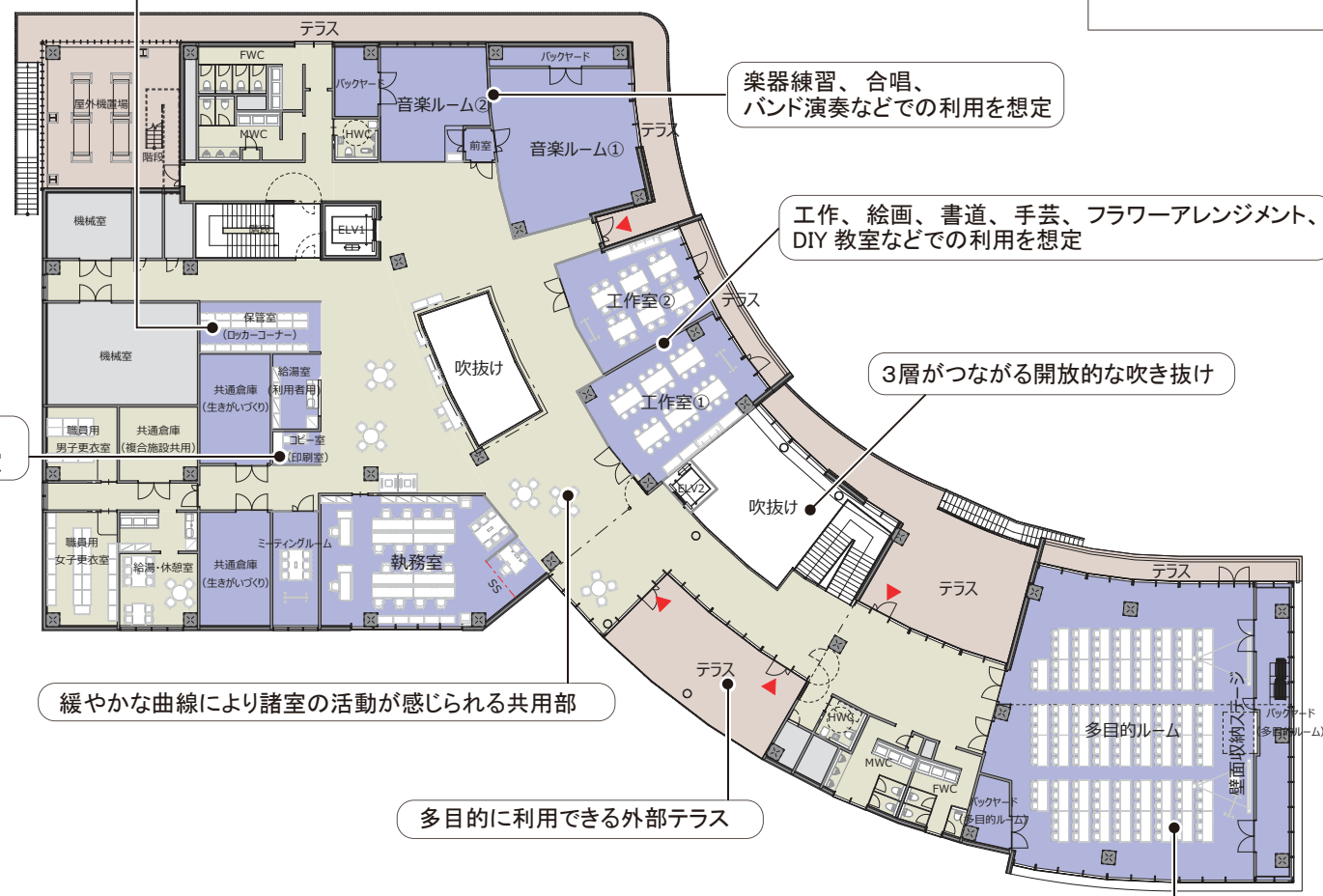
7. 3階平面計画 (S=1:300)

ELV: エレベーター SS: 管理用シャッター SLW: 移動間仕切り
 FWC: 女子トイレ MWC: 男子トイレ HWC: 多目的トイレ

健康増進機能	官民連携機能
子育て支援機能	店舗等
生きがいがづくり機能	廊下・トイレ等共用部
交流機能	出入口



利用団体の物品等の保管を想定



楽器練習、合唱、
バンド演奏などでの利用を想定

工作、絵画、書道、手芸、
フラワーアレンジメント、
DIY 教室などでの利用を想定

3層がつながる開放的な吹き抜け

施設利用者のための
コピー機等の設置を想定

緩やかな曲線により諸室の活動が
感じられる共用部

多目的に利用できる外部テラス

会議、講演会、展示会、合唱、
楽器演奏、軽運動など多目的な
利用を想定
2つの部屋に間仕切り可能



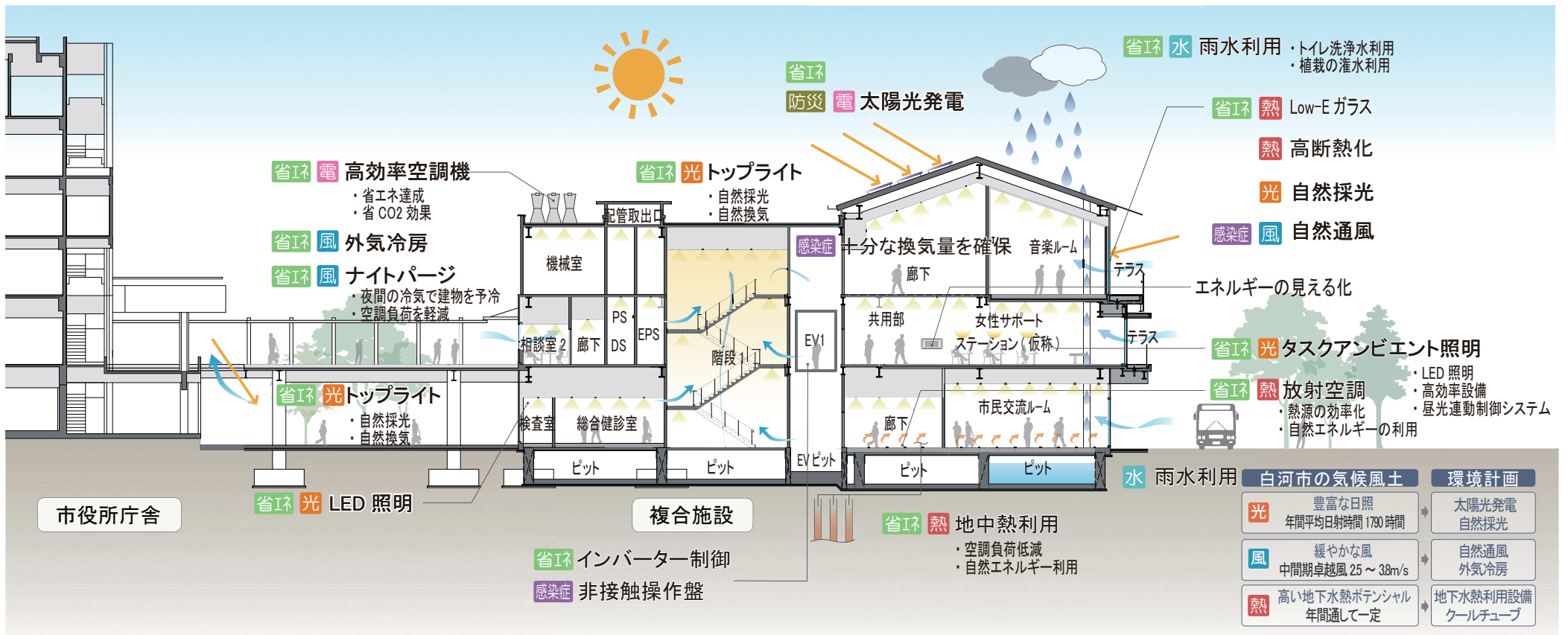
8. 環境配慮計画

■環境計画 基本方針—「ゼロカーボンシティ」を実現する環境配慮型複合施設の実現—

市では、令和3年10月17日に「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとすることを旨とする「ゼロカーボンチャレンジしらかわ」を宣言しました。本施設では、ライフサイクルコストの低減など環境や経済性に配慮した効率的な省エネルギー設備を導入し、建物エネルギー消費量を50%以上削減する、ネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）の実現を目指します。

実現に向けた具体的な取組事例

- ・自然換気・自然採光・地中熱利用など自然エネルギーを活用することで、省エネだけでなく感染症にも配慮した計画
 - ・環境負荷の影響が少なく、太陽光発電パネルの発電効率が高まる東西軸に長く、北側住宅への日影の影響が少ない建物計画
 - ・雨水利用によるトイレ洗浄水と植栽等の灌水への使用、年間を通して安定している地中熱を利用した設備計画
 - ・建物の外壁、屋根や窓ガラスには、断熱性能の高い、高断熱材やLow-e 複層ガラスを採用し、空調負荷を低減
 - ・高効率設備機器、LED照明、昼光・在不在・人感センサーなどによる照明制御の採用などによる消費電力削減
- ⇒ 健康志向の「環境配慮型複合施設」の実現
 - ⇒ 「周辺環境」への配慮と「環境負荷低減」の実現
 - ⇒ 白河市の「気候風土の特色」を活用した施設の実現
 - ⇒ 施設価値を高める「快適性・健康性」の実現
 - ⇒ 最新技術等による「省エネ・省CO2」の実現



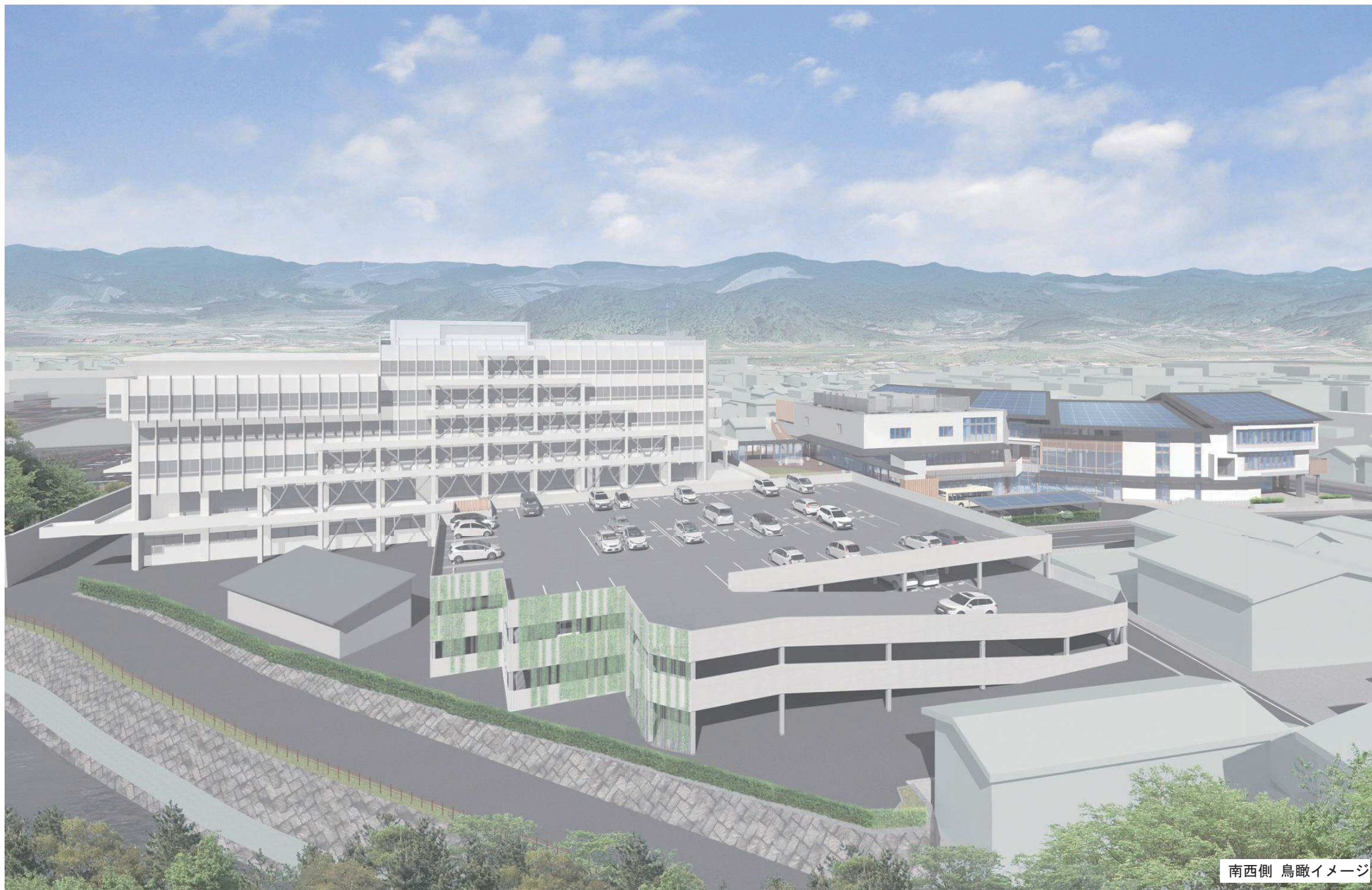
環境配慮イメージ図

9. 外観パース



北東側 鳥瞰イメージ

9. 外観パース



南西側 鳥瞰イメージ

9. 外観パース



北東側 外観イメージ

9. 外観パース



南西側 外観イメージ

10. 内観パース



10. 内観パース



3階 吹抜けのあるホールイメージ